



愛知県における 野生鳥獣による農作物被害の状況（2023 年度）

2025 年 1 月

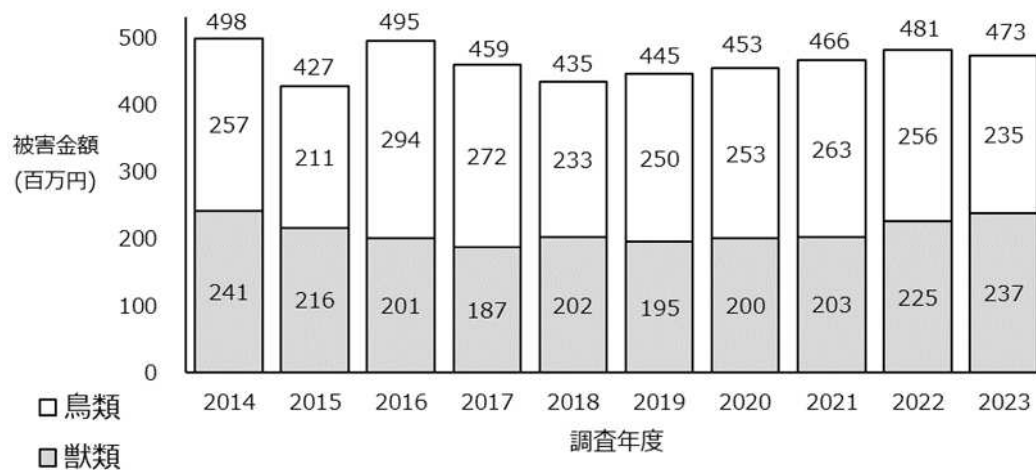
1 概況

（1）愛知県の鳥獣被害状況

指標	被害状況	前年比
被害面積	622ha	124%
被害量	2,569t	105%
被害金額	4.73 億円	98%

- ・被害面積は、鳥類が前年比 121%、獣類が前年比 128%となりました。
- ・被害量は、鳥類が前年比 104%、獣類が前年比 107%となりました。
- ・被害金額は、鳥類が前年比 92%、獣類が前年比 105%となりました。

（2）被害金額の推移

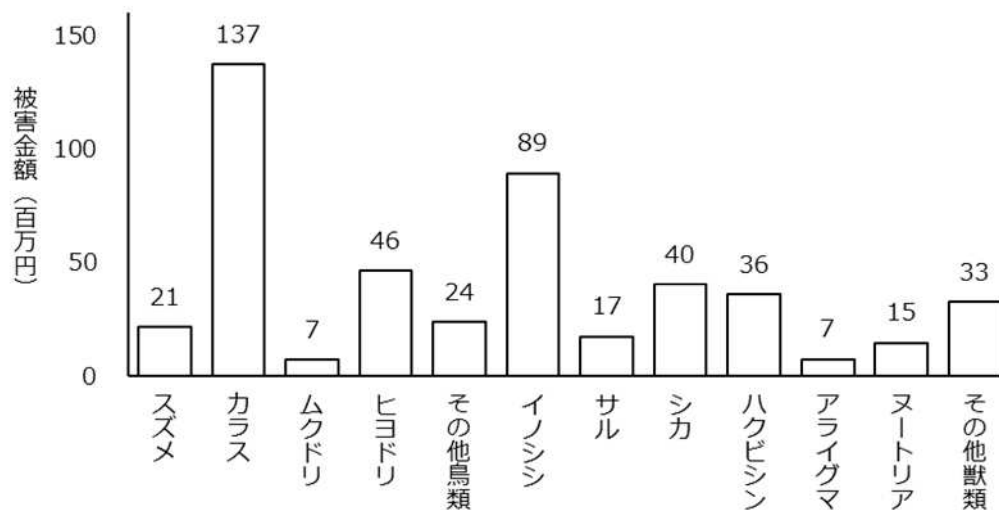


愛知県の野生鳥獣による農作物被害金額の推移(単位：百万円)

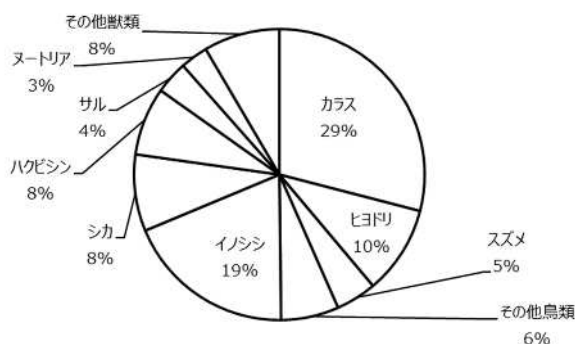
- ・愛知県内で鳥獣被害防止特措法に基づく総合対策が開始された 2011 年度以降、被害金額は 4 億円から 5 億円程度で推移しています。
- ・鳥類による被害金額が多く、都道府県別でも常に上位にあります(2023 年度は全国第 2 位)。



2 鳥獣種別の被害状況



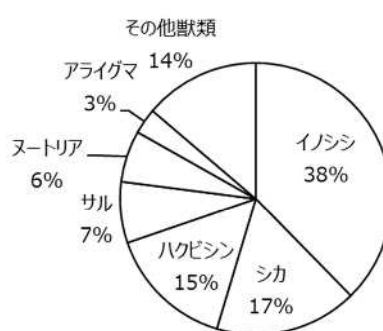
鳥獣種別の農作物被害金額（2023年度）



鳥獣種別農作物被害金額の比率（2023年度）

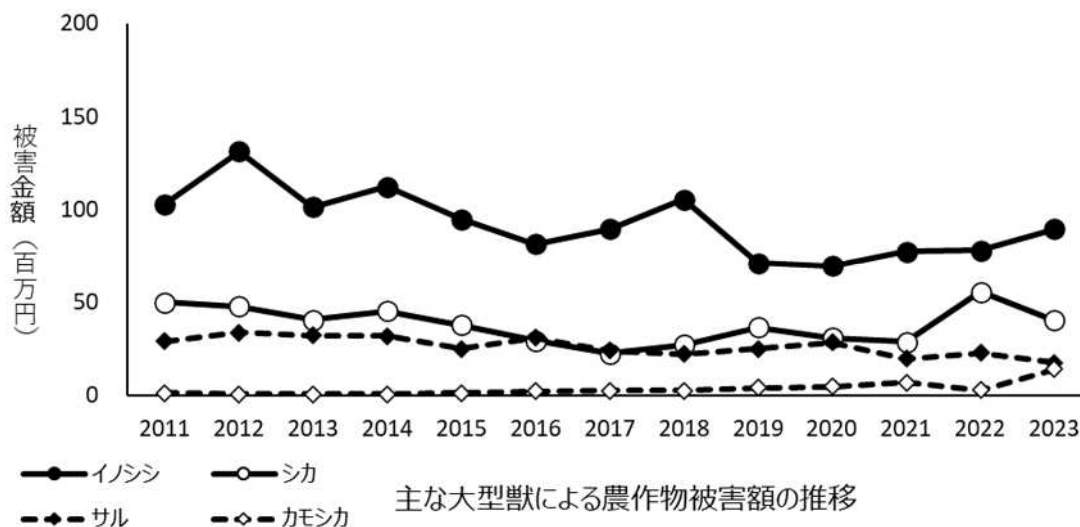


鳥類による農作物被害金額の比率（2023年度）

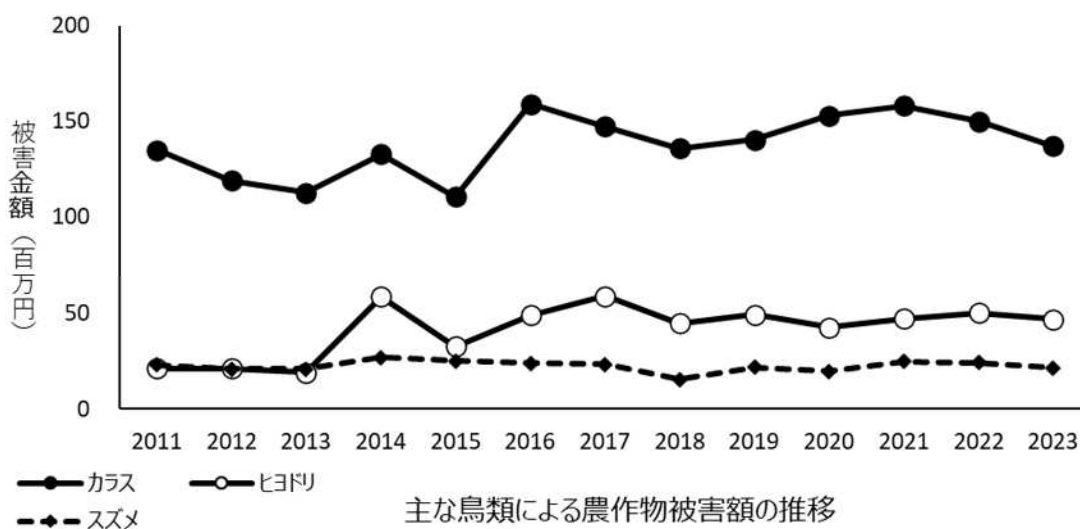


獣類による農作物被害金額の比率（2023年度）

- ・2023 年はカラス、イノシシ、ヒヨドリ、シカ、ハクビシンの順で被害が多くなりました。カラスが全被害額の 29% を占めています。イノシシが 19%、ヒヨドリが 10% です。



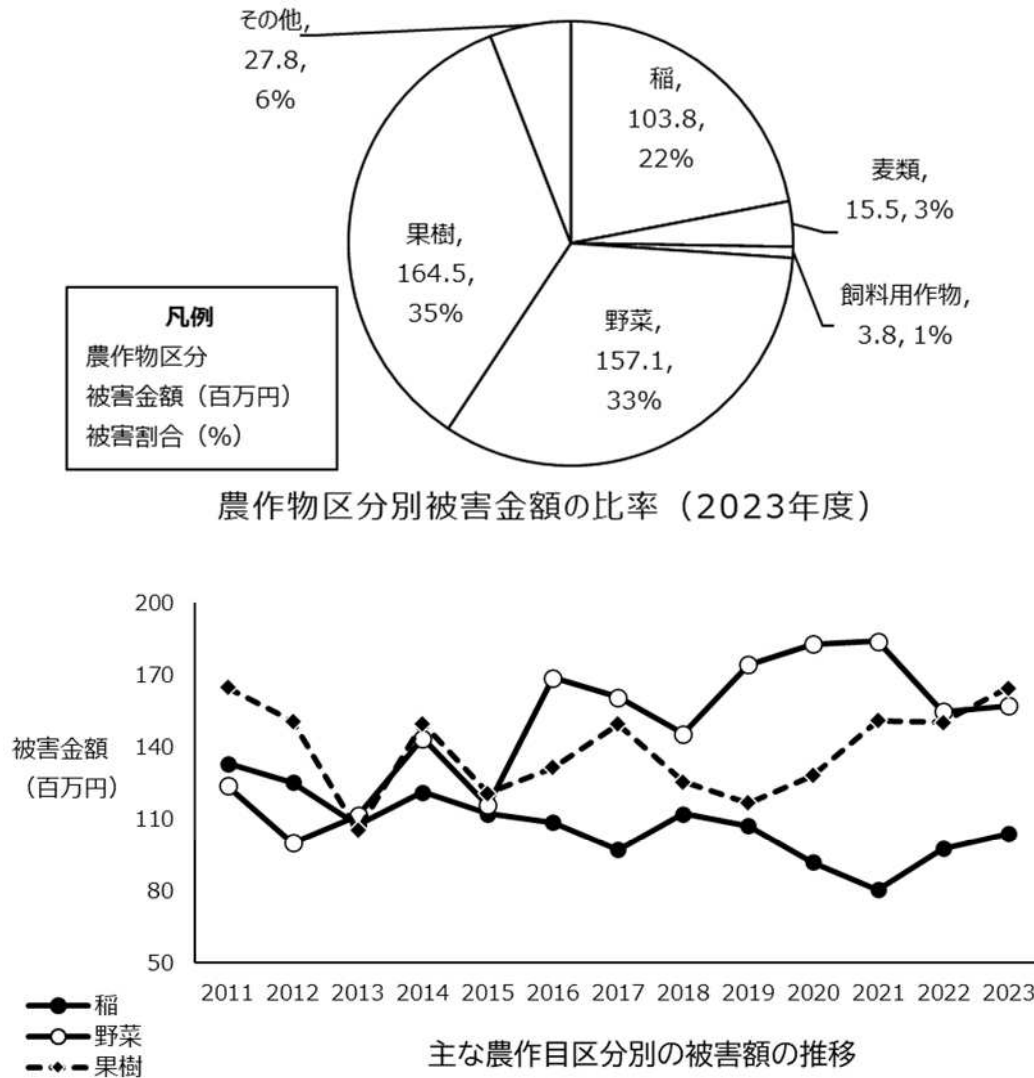
- ・イノシシによる被害額が約 1,150 万円の増（前年比 115%）になりました。これまで被害が多くなかった地域で、個体数増加などにより被害が増加したためであると推測されます。
- ・シカによる被害額は約 1,510 万円の減（前年比 73%）になりました。昨年度は工芸作物（茶）が集中的に被害に遭い被害額が大きくなったのですが、本年度はそこで対策が進んだことなどにより被害が抑えられました。
- ・カモシカによる被害額は約 1,130 万円の増（前年比 531%）になりました。西三河地域で急激に増加しましたが、その要因については調査中です。



- ・カラスによる被害額が約 1,300 万円の減（前年比 91%）になりました。比較的高単価な果樹などで対策が進んだためと考えられます。



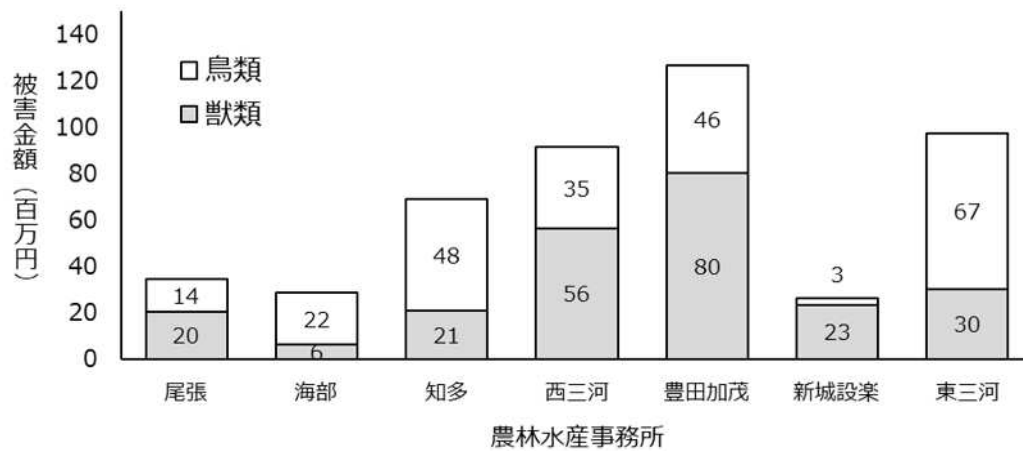
3 農作物区分別の被害状況



- ・農作物区分別の2023年度被害金額は、果樹が1億6,450万円（前年比110%）と最も多く、次いで野菜がほぼ同程度の1億5,710万円（前年比101%）、稲が1億380万円（前年比106%）となりました。
- ・2022年度に約2,590万円の被害があった工芸作物ですが、2023年度は被害がありませんでした。



4 地域別の被害状況



地域別の野生鳥獣による農作物被害金額
(2023年度、単位：百万円)

農林水産事務所管内別の加害鳥獣種上位3種とその割合（被害金額） 2023年度

	1位		2位		3位	
	鳥獣種名	割合	鳥獣種名	割合	鳥獣種名	割合
尾張	カラス	26%	イノシシ	25%	タヌキ	14%
海部	カラス	33%	カモ	27%	ヌートリア	21%
知多	カラス	41%	ハクビシン	27%	ヒヨドリ	21%
西三河	カラス	23%	イノシシ	14%	カモシカ	12%
豊田加茂	イノシシ	44%	カラス	25%	シカ	10%
新城設楽	シカ	46%	サル	13%	イノシシ	12%
東三河	カラス	38%	ヒヨドリ	29%	イノシシ	10%

- ・農林水産事務所管内別の2023年度被害金額は、昨年度と同様に豊田加茂が最も多く、次いで東三河、西三河の順となりました。
- ・獣害の割合が大きい地域は、尾張、西三河、豊田加茂、新城設楽で、鳥害の割合が大きい地域は海部、知多、東三河でした。
- ・豊田加茂と新城設楽地域以外では、カラスによる被害が最も多くなりました。
- ・海部のヌートリア、知多のハクビシン、新城設楽のシカ、東三河のヒヨドリはその地域で特異的に被害が多い鳥獣種でした。